

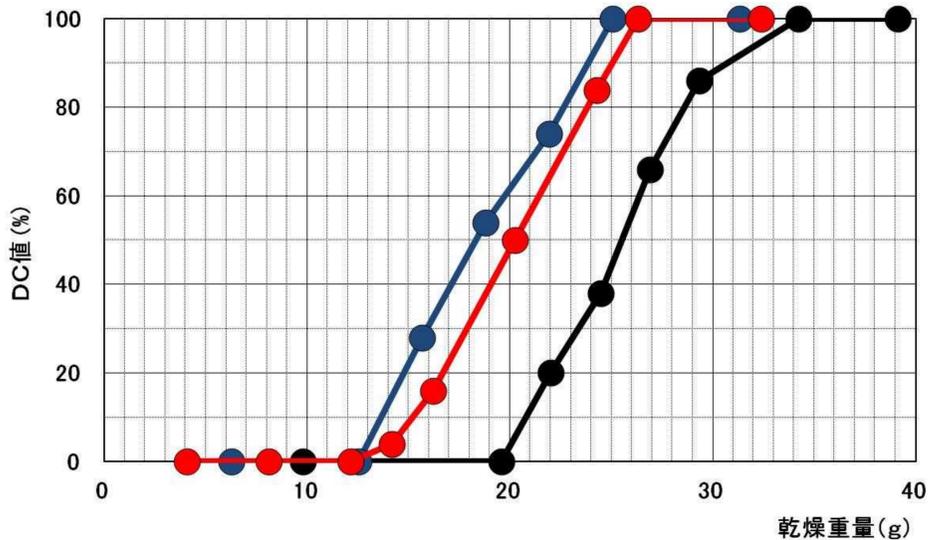
【供試試料】

● トイレトペーパー
ほぐれやすさ ○
紙

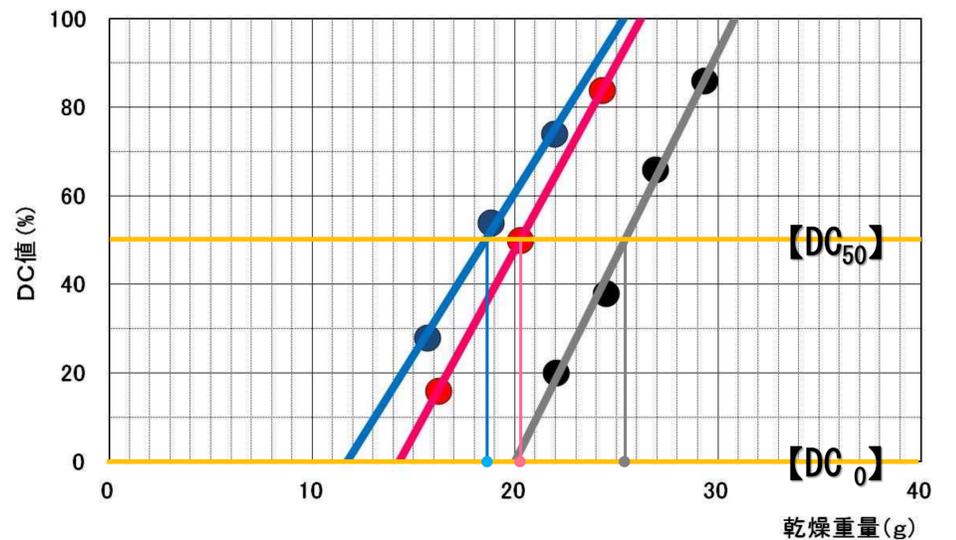
● トイレクリーナー
ほぐれやすさ○
紙

● おしりふき
ほぐれやすさ×
湿式不織布

【試験結果】



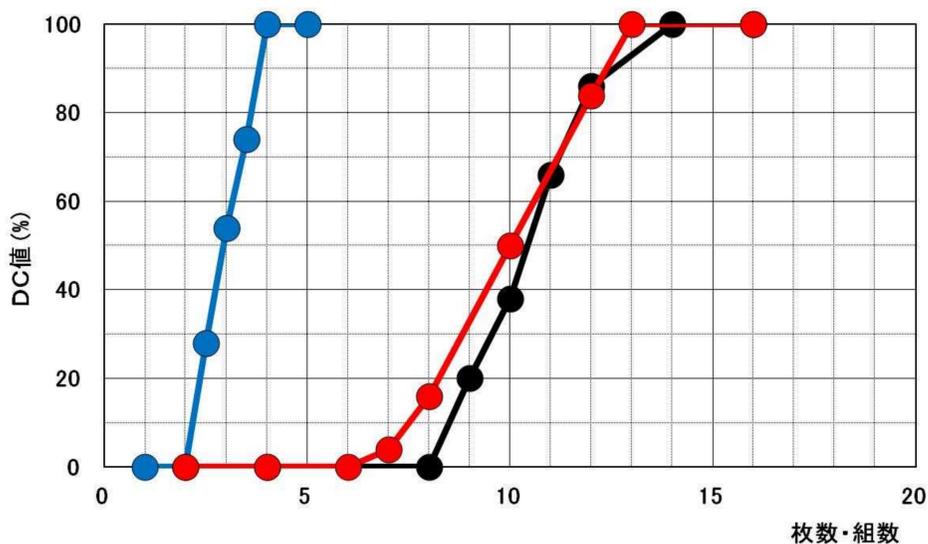
グラフ1 流通性試験結果 (DC値(%) vs 乾燥重量(g))



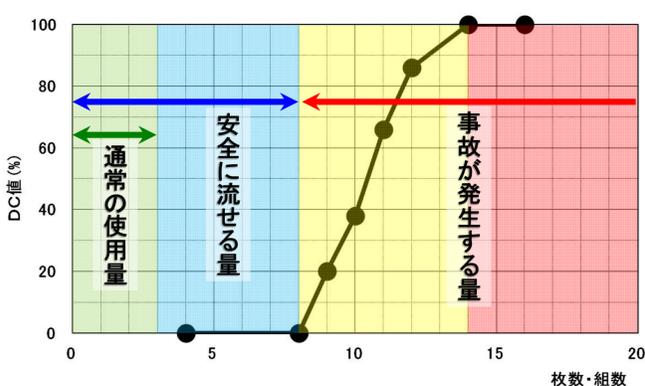
グラフ2 流通性試験結果(近似線)

表1 各試料のDC50値及びDC0値

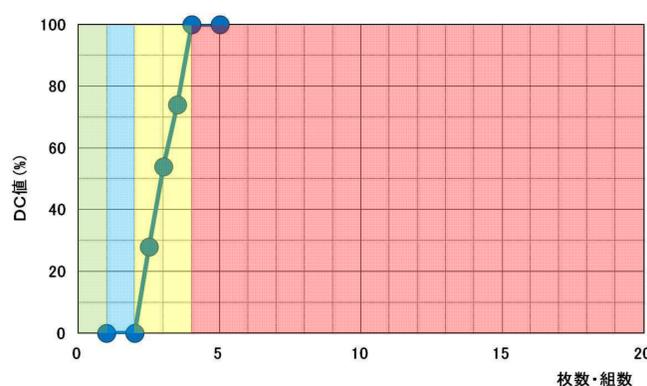
供試製品名	DC ₅₀ 値 (g)	DC ₀ 値 (g)
トイレトペーパー	25	20
トイレクリーナー	19	12
おしりふき	20	14



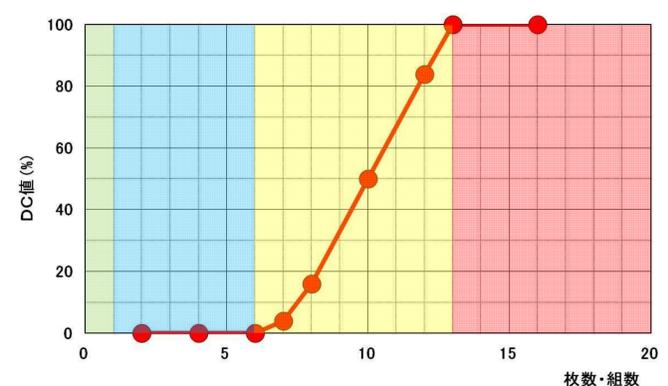
グラフ3 流通性試験結果 (DC値(%) vs 枚数・組数)



グラフ4 流通性試験結果 トイレトペーパー



グラフ5 流通性試験結果 トイレクリーナー



グラフ6 流通性試験結果 おしりふき

【考察】

DC値(%)を用いたグラフは、供試製品の流通性能を差を明らかにする。

DC値(%)が0である範囲が試験片を安全に排出することができる範囲を示す。また、DC値(%)が0を超える点またはDC₀値(g)から事故が発生する範囲となる。

DC₀値(g)の値が大きいほど、流通性が優れていることを示す。

グラフ3~6は横軸に投入した試験片の組数または枚数を示して記載している。これらのグラフによると、「トイレクリーナー」より「おしりふき」の方が優れた流通性があることを示している。「トイレクリーナー」は2枚より多くを流すと事故が発生する恐れがあることになる。

これらの結果により、「トイレに流せる製品」の便器及び配管内での流通性は、JIS P4501「ほぐれやすさ」の品質基準を満たすだけでは確保されるものではないことが明らかとなった。

「トイレに流せる製品」の流通性検証は、各製品1組当たりの①総目付(g/m²)、②総面積(cm²)、③総乾燥重量(g)、④重ね枚数(枚)、⑤使用頻度・使用量、⑥水中での崩壊時間(s)を考慮する必要があると考える。